

在ボストン日本国総領事館主催
**ニューイングランド大学生
第五回日本語コンテスト**



The Fifth Annual
Japanese Language Contest for
New England College Students

Organized by
The Consulate General of Japan in Boston

2015. 4. 11

ニューイングランド大学生日本語コンテストも今年で五回目を迎えます。当コンテストは、エッセイ部門とスピーチ部門の二部門からなり、ニューイングランド地域で日本語を学習する大学生を対象としています。日本語学習者の皆様に日頃の学習成果の発表の場を提供するとともに、日本についてより一層知って頂くことを目的としています。

今回は、ニューイングランド地域にある大学からエッセイ部門は二十四作品、スピーチ部門には十九作品の参加を得ました。エッセイ部門では、「私の日本」をテーマにしたところ、日本に行った思い出や日本に興味を持ったきっかけなど、自らの経験等に基づいた様々な視点から述べられた甲乙つけがたい作品が集まりました。どの作品からも、日本への思いが強く感じられました。スピーチ部門では、童話、人間と人の違い、日本の服、日本の自然観など、様々な内容の原稿が集まり、こちらも原稿を見た限りでは甲乙つけがたく、スピーチが楽しみでなりません。

この中から選ばれたエッセイ部門入賞作品を表彰するとともに、本コンテストについて日本語教育関係者や一般の方々にも知って頂くために本小冊子を作成しました。この小冊子が日本語学習者の刺激となり、次回日本語コンテストにより多くの参加者が得られることを期待したいと思います。

最後になりましたが、ご指導くださった先生方、審査員の方々、賞品をご提供下さいました企業・団体の方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

平成二十七年四月

在ボストン日本国総領事

姫野 勉

第5回日本語コンテストプログラム

平成27年4月11日（土） 1時より

1. 開会の辞

2. 挨拶 在ボストン日本国総領事館総領事 姫野 勉

3. 審査員紹介

4. スピーチ 中級の部

- | | | | |
|-----|--------------------------|-----------------------|----------------|
| (1) | Austin Luor | Brandeis University | 家族のような日本 |
| (2) | Michelle Lin | Boston College | 自分の周りを見てみよう |
| (3) | Oлама
Nzenbe-Williams | Brown University | 私の言語 |
| (4) | Xiwen Zong | Boston College | 日本人の自然観 |
| (5) | Qiwēn Wang | UMass Amherst | 幻の国？ |
| (6) | Zhechun Wang | Mount Holyoke College | 『女子力』はどうしようかな？ |

5. スピーチ 上級の部

- | | | | |
|-----|----------------|-------------------------|------------------|
| (1) | Ha Min Kim | Wesleyan University | 言語の勉強で日韓の橋を架ける |
| (2) | Daniel Morales | Boston College | 私が留学から学んだこと |
| (3) | Yining Dai | Middlebury College | 自分へのご褒美 |
| (4) | Kenneth Mai | Harvard University | 多様社会における平和共存の可能性 |
| (5) | Xixi Zhao | Northeastern University | 歌から習う日本語 |
| (6) | Yilun Chen | UMass Amherst | 布団が吹っ飛んだ |

6. エッセイ部門入賞者への賞状・副賞授与

7. スピーチ部門審査講評および結果発表

在ボストン日本国総領事館首席領事 薄井 次郎

8. スピーチ部門入賞者への賞状・副賞授与

9. レセプション

審査員 エッセイ部門

作田 貴志

セイヤー 桂子

西川 迅

森田 喜代子

横山 勝寿

薄井 次郎

審査員 スピーチ部門

井熊 康之

グラハム 智子

坂本 一之

作田 貴志

薄井 次郎

染田屋竜太 (予選)

高安 啓子 (予選)

ホーマン 道子 (予選)

松村 さとみ (予選)

出場者の大学の日本語教師 (自校学生以外を審査)

講談社アメリカ上席副社長

ボストン日本協会理事

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ (朝日新聞記者)

タフツ大学日本学科日本語講師

ボストン日本語学校校長

在ボストン日本国総領事館首席領事

昭和ボストン日本語プログラム担当

ノーブル・アンド・グリーノー・スクール日本語教師

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ (産経新聞記者)

講談社アメリカ上席副社長

在ボストン日本国総領事館首席領事

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ (朝日新聞記者)

ボストン日本語学校教師

ボストンラテンアカデミー日本語教師

ハーバード大学元日本語上級講師

ご協力頂いた企業・団体

講談社アメリカ、香老舗

松栄堂、ボストン・レッドソックス

(全五十音順)

エッセイ部門入賞者

Award Winners

中級レベル Intermediate Division

一位 1st Place

Shuaichen Wang UMass Amherst

二位 2nd Place

Eric Paik Brandais University

三位 3rd Place

Chu Rou Tang UMass Amherst

上級レベル Advanced Division

一位 1st Place

Yu Zhao Bowdoin College

二位 2nd Place

Katherine Carter Bowdoin College

三位 3rd Place

Tianyi Wei Boston College

中級レベル 一位

小さな国

オウ・スイシン

ユーラシア大陸の一番端の小さな島国、その名は、日本。大きさはアメリカの25分の1しかなく、資源も豊富ではないが、海に囲まれ、美しい山々が続いている。従って、日本人は有限な美しい自然を大事にしている。

去年一人で日本を旅行した。成田空港で飛行機を降り、「ちっちゃい空港だなあ」と思ったが、税関を通り抜けると、電車は直接空港と連結し、インフラも完備され、大変便利だと感じた。特に、空港内のシャワールームやハイテクトイレの機能美に魅せられ、しばらく立ったままだった。

旅に出る前に事前調査をしたところ、大阪を中心とした関西には、昔からの名所がたくさんあることが分かった。関西へ行ったら、いい思い出が作れるだろうと思った。一番印象に残った場所は、京都の二条城で

ある。二条城の二の丸御殿の玄関で靴を脱ぎ、御殿に上がったが、撮影禁止だったので、残念ながらその豪華で美しい部屋は残せなかった。古い木でできた床の上を歩くと、継ぎ目がぎいぎいと鳴り、古き日本の歴史が感じられた。日本人が文化遺産の保護を重んじていることを心で感じる事ができた。

また、「世界最大」と言われている「コミケ」が東京であり、三日間で60万人も集めたらしい。電車降り場から会場まで大勢の人でぎっしり埋まっていたが、みんなきちんとマナーを守り、長い列に礼儀正しく並んでいて、信じられないという気持ちになった。大会が終わり、退場するファン達がゴミを片付ける姿を見て、美しい景観を大切にする自主的な精神に感動した。

美しい国は、美しい人々によって守られている。日本の国土は小さいけれど、日本人の美しい国を思う気持ちは大きい。日本より大きな国も、美しい国を作るために見習うところは多いのだ。

中級レベル 二位

私の日本

パイカー エリック

世界経済の中心にある日本は今でも大勢の外国人が関心を持っていてる国である。日本のマンガや日本食の国際的な人気は日本の文化がどこまで世界的に愛されるか教えている。私も外国人として日本に関心をもっているが、それはただ日本経済の力やマンガのためじゃない。今アメリカの大学で日本語を勉強している私は、韓国で十六年間住んでいたアメリカ人。私は十六年間日本から一番近くにある国で日本を見ていた。その私にとって日本は特別な意味でいつも心に残っている。

私に十六年間地理的にそして文化的に近くにあった日本を初めて経験した時は小学校の時、あの時私に日本人の友達ができただことは、子供だった私に初めて外国というコンセプトを教えた大切な経験だった。彼の名前は田村嵩達。今でも時々連絡する彼は子供の時私の隣人だった。彼も私

も英語がわからなかった時期、私たちは相手が何を話しているか知らないまま友情を培った。彼と友達になったことでわかったのは日本と韓国の文化が似ていること。日本の文化の大きい部分は礼儀と礼節で、韓国と同じだ。私がテレビで見た地震の時の日本の姿は礼儀の理想的な例で、まるで礼儀そのものだった。地震の中でもちゃんと並んでいる日本の市民たちを見ながら日本の文化の素晴らしさを感じていた。私が見た日本の礼儀は韓国人が理想的に思っているが実行するのをあまり見ることがない。そのような日本文化の素晴らしさは、私が日本を尊敬する理由の一つである。

私にとって日本が一番近くにある隣人である。日本語の勉強をしている今、私はそのことを以前よりもっと感じている。韓国語と日本語は文法的に似ている。言語は文化の一部だから、日本と韓国は、ただ地理的じゃなくて、色んな意味で隣人だと言ってもいい。最近では日本に行っていないが、近い将来に行きたい。

中級レベル 三位

出会い

アルウェン・タン

私にとって日本は特別な存在です。初めて日本に行った時、日本人の優しい話し方や丁寧な身振りに大変よい印象を受けました。最近では、日本文化をもっと深く研究するため、太宰治や東野圭吾、有名な日本人作家の翻訳を読みます。それに、漫画、劇、音楽、料理など、日本文化の一切に大きな魅力を感じます。何時からこんなに日本のことが好きになったかと言えば、やはり、小さい時から仲の良い、年上の従姉の影響です。それ以来、日本と関係があること全てが好きになりました。

当時、私の家族は皆、まだ台湾に住んでいました。私は小学一年生、従姉のアリソンはもう中学生でした。記憶の中の従妹は、何時も面白くて、優しい、一番親切なお姉ちゃんでした。アリソンの部屋には沢山漫画があったので、放課後アリソンの家に行っては、一緒に漫画を読んでもです。まだ幼い私は世界の国々の文化をあまり知らなくて、その頃、初めて、自分が生まれた国と違う国の文化に触れ

ました。私は好奇心が大変強く、すぐに日本に興味を持つようになりました。しかし、楽しい時間は短く、二年生になった私は両親と共に上海に転居しました。それから、長い間アリソンと会えなくなりました。それでも、たまに電話をすると、最近どんなドラマを見ているとか、どんな曲を聞いているとか、いろいろな話題に何時もわくわくしました。今考えてみると、もしアリソンがいなかったら、私は恐らく日本にこんなに興味を持たなかったでしょう。したがって、日本のことを考えると、アリソンと一緒にした愉快なことがいろいろと思ひ出されます。

アリソンと作った思ひ出は全て大切にしています。アリソンは新しい道が開けるように人生の方向を教えてくださいました。時が経過し、私も階段を一步一步上りました。アリソンに感謝しながら、私の心に植えてくれた日本という木を、情熱を注ぎながら大切に育てていきます。

上級レベル 一位

私の日本

ユ・ジャオ

日本から学んだことは何かと聞かれれば、私は小津安二郎監督に教えられた、自分に誇りを持つことと答える。

私は高校時代から米国に留学している。留学先がメーン州だったため、アジアからの数少ない留学生の一人として、すごく不安だった。周りの友達に好かれたいあまりに、自分を「殺して」しまった。本来は静かな性格なのに、無理にパーティーに行ったりしてしまった。知り合いがどんどん増えて嬉しかったが、少数派として、自分の個性を隠し、多数に合わせることにしか出来ないのかと、落ち込んだ。パーティーに出かける前、鏡を見るのが辛かった。鏡の中の私はまるで仮面を被っている様だった。

そんな私に光をくれたのは、大学の映画の授業で見た小津の『東京物語』だった。その映画は普通の日本人の日常生活を静かに、淡々と撮っただけのものだった。映画を見終わった時、教授になぜこの映画が傑作として世界中で認められたのかと尋ねた。すると、教授は笑いながら、小津

が愛する母国の美しさを、純粋に表そうとしたことは、素晴らしいことではないかと問いか返した。

そうなのだ。彼はありのままの日本を世界に見せようとしただけなのだ。この映画が製作された当時の日本は、敗戦国として自信を失くしていた時だっただろう。しかし、小津は日本人としての誇りを持ち続け、敢えて母国のありふれた日常生活で勝負した。私は小津が「日本人は、日本人なんだよ。それ以上でも、以下でもない」と言っている様に聞こえた。これは、少数派として自分らしさを捨てなければならぬのかと、諦めていた中国人留学生の私の心に響いた。私は、小津に「お前は、お前なんだよ」と肩を叩かれた気がした。

「私は、私ではない」ということがはっきり分かった私には、仮面はもう必要ない。今の私には鏡を見るのが怖くない。自分に誇りを持つこと、それが小津から学んだことだ。これこそが、私の大切にしたい日本である。

上級レベル 二位

もつたいない

ケイティー・カーター

私の祖母は他の人と少し違うと思っていた。五歳の時、母に、

実は祖母は日本人だと教えられて、とても嬉しくなって皆にその事を教えて回った。高校の時、祖母と二人で日本に行った時、やはり祖母が特別なことが分かった。

祖母の兄が死にそうな病気になり、私も祖母と一緒に日本に行くことになった。日本では高松市の祖母の姉の家に泊まった。そこで、日本の家の習慣を色々習った。トイレのスリッパを庭で履いて、祖母にとっても怒られたりした。しかし、一番大切なレッスンは「もつたいない」の意味を知ることだった。

晩ご飯に生のオクラが出たが、私は全部食べられなかった。形がちよつと変だと思った。すると、祖母が厳しく「もつたいない」と言った。聞いたことのない言葉だったので意味を聞くと、祖母は「出された食べ物は全部食べなさい」とだけ言った。

祖母達に戦争中の話を色々聞いた。食べ物も物もなくて、兄弟四人が一つの布団で寝たりして、生活はとても大変だった。

ある時、曾祖父が「もつたいない」と言って、外で拾った布団

を頭にのせて帰ってきたそうだ。祖母はその話を笑いながら話していたが、私は少し「もつたいない」の意味が分かった。「物をむだにしないこと」だと思った。

日本で祖母は、毎朝とても早く起きていた。私は、どうしてそんなに早く起きるのかと聞いた。するとまた、「もつたいないから」と言われた。日本での祖母は朝早くから夜遅くまで、多くのことをしようとしていた。兄のお見舞いに行ったり、兄弟達と思ひ出話をしたり、忙しそうだった。だが、祖母は何か嬉しそうだった。私は気がついた。祖母は、日本で家族と一緒にいる時間を大切にしようとしているのだ。「もつたいない」は、物をむだにしないことだけではなく、色々なこと大切にする哲学なのだ分かった。

あれから、私も祖母のように「もつたいない」の心を大切にしている。私も祖母のような人になりたい。

上級レベル 三位

私を救った万華鏡の世界 ティアニ ウエイ

「万華鏡を覗くと異界の風景が見える」という言葉がいつからか自分の頭の中にあつた。それは動かすたびに形を変え、美しい光と影を見せてくれる。しかし、自分の手の中にありながら、決してその世界には直接触れることはできない。それでも、この目が眩むようなキラキラと輝いている異界の魅力に吸い込まれた。私は日本に行ったことはない。本当の日本は知らない。アニメという万華鏡に浮かんでくる世界が日本との初対面であつた。

高校時代、私は勉強に追われるだけの面白くない生活からの脱却を求めていた。現実の背負わなければならぬ責任から逃げられないことは十分承知していたのに、私の灰（ハイ）スクール生活から逃避を試みると、すぐに万華鏡の中の日本と出会つた。理想した「日常以上」の生活がそこにはあつた。級友たちと夜遅くまで学校に残り文化祭の準備をする喜びからファンタジーの世界での冒険まで、アニメで見た世界が全部私に教えてくれた。実際に私自身

の経験でなくても、どんな状況でも一生懸命な日本人の行動が私の心に深く共感した。だから挫折しそうになると、この希望と夢が重なっている架空空間に自分の心は力をもつた。私も今自分ができることをやり、いつか昔のことを思い返す時、後悔のない経験を思い出したいと切に思う。

この春、私は大学を卒業し、念願のメディカルスクールに進学する。高校から8年間、脱落せずに頑張つて来られたのも、万華鏡があつたからだと信じている。そして、その万華鏡との付き合いからもし一つ学んだことがあるとしたら、それはもう過ぎた時間と失つた機会は、取り返すことができないと言うことだろう。万華鏡の中の日本人が毎日精一杯笑つたり、怒つたり、掛け替えない思い出を作つたりする姿をみていると、自分も今この瞬間を悔いのないように最大限に生きようという気持ちが始めてくる。これから先の人生の旅、私はずっと万華鏡を片手に歩んでいく。

在ボストン日本国総領事館主催

第六回日本語コンテストのお知らせ

日にち… 二〇一六年四月ごろ

場所… グレーターボストン地域

部門… エッセイコンテスト

中級・上級

スピーチコンテスト

中級・上級

次回日本語コンテストは、今年度同様に、スピーチ部門、エッセイ部門に分けて行う予定です。詳しくは追って在ボストン日本国総領事館ホームページ等でご案内いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

対象… ニューイングランドの大学に在籍している大学生（大学院生も含む）

お問い合わせ先…

在ボストン日本国総領事館 大津賀

infocul@bz.mofa.go.jp